

Systemex

BeFine!

第42期 第1四半期報告書

2008年4月1日～2008年6月30日

証券コード 6869



40th Anniversary

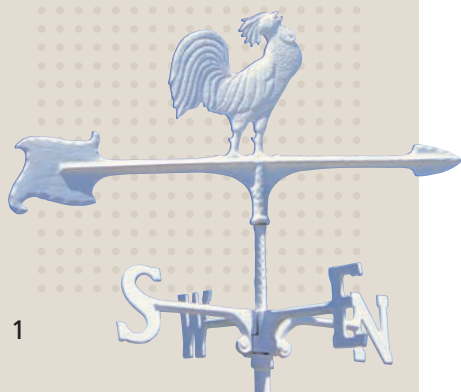
シスメックス株式会社

検体検査事業からライフサイエンス事業へと活躍の場を拡げつつあるシスメックス。健康への関心がますます高まる社会のなか、当社は健やかな未来に独自の技術と製品で貢献してまいります。「Be Fine! (健やかに!)」は、シスメックスグループと株主の皆様の架け橋として四半期ごとに発行しています。

特集

おかげさまで40周年 シスメックスの軌跡 飛躍の10年 —グローバルNo.1への挑戦—	1
業績の推移/トピックス	5
製品一覧	6
IR・広報室からのお知らせ	

表紙：神戸市須磨海浜水族園



特集

おかげさまで40周年

シスメックスの軌跡

History of Sysmex



代表取締役社長
インタビュー 家次 恒



40th Anniversary

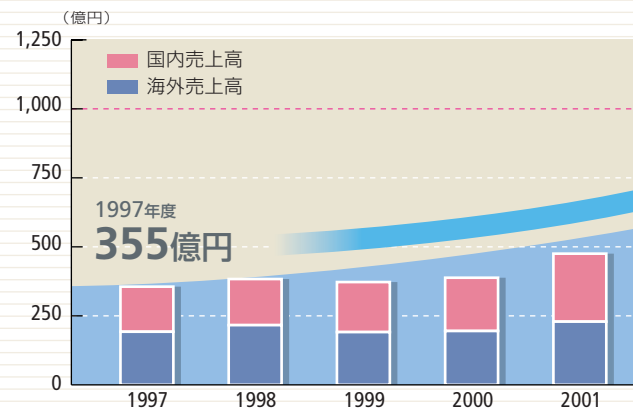
第2話・飛躍の10年 —グローバルNo.1への挑戦—

1968年の創業以来、当社を支え、育ててくださった皆様への感謝の思いを込めて、シスメックスの過去・現在・未来をご紹介します「シスメックスの軌跡」シリーズ。第1話では、創業に携わった人々の努力と情熱についてお伝えしました。

2回目となる今回は、当社が著しい成長を遂げた約10年（1998～2008年）にスポットをあて、その取り組みについて、家次社長に語っていただきます。

▶ 第1話の内容はホームページに掲載しています
http://www.sysmex.co.jp/ir/data_irreport/bizreport/index.html

●売上高の推移



1998～2008年はどのような10年でしたか？

血球計数分野でグローバルNo.1を達成するなど、飛躍的な成長を遂げた10年でした。

10年前の1998年、当社は「シスメックス株式会社」へと社名を変更しました。世界の市場で高い技術力と信頼の証として認知されてきたブランド「Sysmex」を社名とすることで、よりグローバルな企業として躍進することを目指したのです。

そして、「シスメックス株式会社」として歩んだ最初の10年は、まさに「飛躍の10年」となりました。

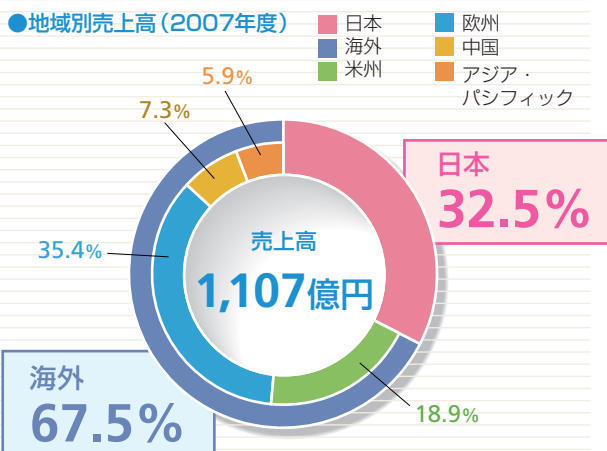
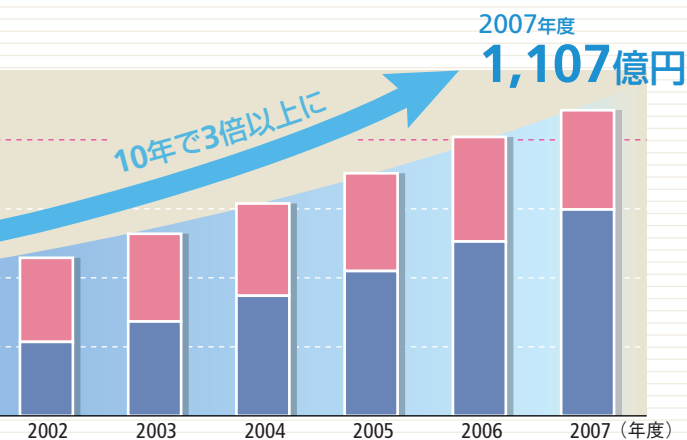
売上高は1,000億円を超え、血球計数*分野でグローバルNo.1を達成し、検体検査*領域の世界トップ10企業の仲間入りを果たしました。

この成長の要因は何だと思われますか？

要因のひとつとして、海外拠点の整備など積極的なグローバル展開が挙げられます。

創業当初より欧米を中心にグローバルな事業基盤の構築を進めてきた当社は、この10年でさらなるグローバル化の推進に努めました。10年前に16カ所であった事業拠点は39カ所にまで拡大し、現在では名実ともにグローバル企業として世界を舞台に事業を展開しています。この結果、海外売上高比率は約7割を占めるまでになり、海外売上高の伸びが、当社の成長に大きく貢献しています。

また、この10年の特徴として、成長著しいアジアでの事業展開を本格化しました。アジアにおける拠点の



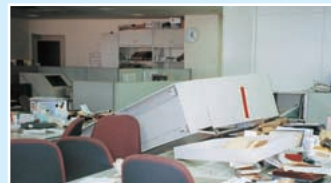
*血球計数検査: 血液中の赤血球や白血球、血小板などの数や大きさを測定することにより、白血病や貧血などに対し、より精密な検査が必要か不要かを判断するための検査。

*検体検査: 血液や尿、細胞などを体の中から取り出して調べる検査。

コラム | 震災を乗り越えての上場

1995年1月17日午前5時46分。マグニチュード7.2、震度7を記録した阪神淡路大震災は、神戸に拠点を置く当社にも大きな影響をもたらしました。

神戸営業所はビルが全壊し、当時ポートアイランドにあった本社は交通網が分断され、立ち入ることができない状況でした。



震災直後の本社

さらにこの時期は、2年前から進めていた上場の準備が大詰めを迎えていました。各部門が大変な労力を注ぎ込み、ようやく幹事証券会社の事前審査が受けられるところまでこぎつけた矢先の大禍でした。資料は震災で散乱し、監査法人の先生を迎えるための交通網も断たれました。

しかし、関係者の懸命の努力の末、予定から遅れることわずか1カ月半で事前審査を通過。同年11月15日、シスメックスは記念すべき上場を果たしたのです。



大阪証券取引所 市場第二部上場 (1995年11月15日)

整備着手の際、市場を肌で感じようと現地視察に赴きましたが、アジア各国の医療水準を目のあたりにし、医療貢献の必要性と、アジア地域の近い将来の可能性を強く感じ、アジアへの積極的な投資を決めました。1995年の中国における試薬生産拠点の設立を機に、1998年にはシンガポール、2000年には上海にそれぞれ現地法人を設立しました。その後も、各主要国で販売・サービス拠点を拡充しています。

他社に先駆けていち早く拠点を整備できた優位性を活かし、アジアでは現在、血球計数分野における市場シェアNo.1を獲得しています。中国やインドをはじめ、アジアはまだまだ大きな可能性を秘めており、今後さらなる成長が期待されます。また、近年は中欧や中東などの新興エリアでも拠点の整備を進めており、新たな需要の拡大に備えています。



アジア視察(1996年)

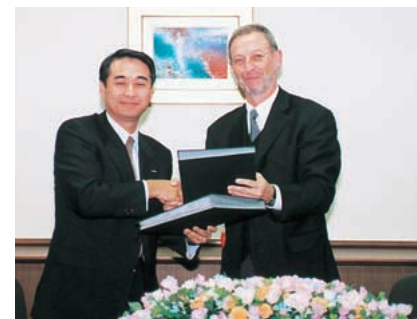
海外企業とのパートナーシップも進んだようですね。

世界を代表するメジャー企業との
お互いの強みを活かした提携により、
事業を拡大することができました。

世界市場での飛躍において、海外企業との提携は重要な役割を果たしてきました。その契機となったのが、1995年、米国のデイド・インターナショナル社(現シーメンス社)との血液凝固*分野における、両社の強みを活かした業務提携です。当時シスメックスは、血球計数分野に加え、血液凝固分野においても先進的な技術を保有していました。血液凝固分野のリーディングカンパニーである同社との提携により、両社は血液凝固分野においてグローバルNo.1のブランドを確立しました。これを機に、シスメックスは検体検査領域におけるグローバル企業として評価されるようになったのです。

1998年には世界有数のヘルスケア企業であるスイスのロシュ社と、血球計数分野における販売、共同

研究に関する契約を締結しました。ロシュ社は、当時(1997年度)の売上高が約1兆6,723億円という巨大企業です。売上高355億円(1997年度)であった当社が、同社と対等な条件でグローバル契約を締結したことは、周囲を驚かせました。この提携が実現したのは、当社のプレゼンス*が国際的にも高くなっていったことに加え、独自の技術開発力や将来性が高く評価されたからに他なりません。当社の強みと独自性は、企業規模に関わらず、グローバル展開を進めるうえで大きな武器となることが証明されました。



F.ホフマン・ラ・ロシュ社と業務提携に合意(1998年)

●海外企業との提携の拡がり



*血液凝固検査:血液から血球成分を取り除いた血漿を検査し、血友病の診断、出血のしやすさ、血栓症の傾向や、肝機能の状態を調べる検査。

*プレゼンス:存在。存在感。

さらなる成長に向けた取り組みについて教えてください。

新企業理念「Sysmex Way」の 実践により、企業価値の向上を図る とともに、新たな検査技術の創出を 目指します。

創立40周年を迎えた2008年、当社はさらなる企業価値の向上と、新たな検査技術の創出により、さらなる成長を遂げていきたいと考えています。

その取り組みのひとつとして、昨年、新企業理念「Sysmex Way」を制定しました。この新しい企業理念は、グローバルに拡大したステークホルダーの皆様からより厚い信頼を得られる企業を目指し、創業時から大切にしてきた経営基本方針を、時代の変化に合わせて再定義したものです。当社はこの1年を「Sysmex Wayを実践する年」と位置づけ、企業

価値を高める活動を積極的に展開しています。

また、新たな検査技術創出を目指した取り組みの一環として、当社はライフサイエンス領域に挑戦しています。なかでも、同事業初の製品として、欧州ではすでに市場導入が進んでいる「乳がんリンパ節転移迅速診断システム」については、本年6月に日本でも厚生労働省の認可を取得しました(→詳しくは5ページ)。また、本年10月にグランドオープン予定の「シスメックス テクノパーク」を新たな研究開発拠点として、当社はこれからも豊かな健康社会を実現する新しい検査技術の創出に取り組んでまいります。

最後になりますが、当社が40周年を迎えることができたのも、ひとえに株主様をはじめとするステークホルダーの皆様のご支援の賜物であり、厚く御礼申し上げます。今後も皆様からのさらなる信頼を頂戴できるよう、グループ一丸となって邁進してまいります。皆様には、ますますのご支援をよろしくお願いいたします。



代表取締役社長

家次恒

いえずく ひさし

【出身地】大阪

【略歴】大学を卒業後、銀行に13年間勤務。その後、東亜医用電子株式会社(現シスメックス株式会社)に入社。1996年、代表取締役社長に就任。

【趣味】読書、ゴルフ、スポーツ観戦 【信条】「意あらば通ず」

●ライフサイエンス領域の研究テーマ

がん

■リンパ節転移迅速診断技術

当社が開発したOSNA法*を応用し、がん細胞のリンパ節への転移の有無を約30分と短い時間で検出する診断技術



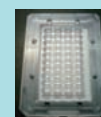
遺伝子増幅検出装置 RD-100i

■子宮頸がんスクリーニング技術

対象細胞を当社独自の測定技術、フローサイトメトリー法によって分析することにより、がん細胞かどうかを判定する技術

■がん再発予測技術、抗がん剤効果予測技術

がん細胞が増える仕組みである“細胞周期”から、がんの再発リスクや抗がん剤の効果を予測する技術



たんぱくチップ

■米国アフィメトリクス社との

共同研究開発および臨床開発

がん分野などの新たな診断技術の創出に向けた共同研究開発を推進



DNAチップ

糖尿病

■微侵襲グルコース*測定技術

採血の代わりに、組織液*をほぼ痛みなく採取し、組織液中のグルコースを高感度センサーで測定する技術



■糖尿病シミュレーション技術

糖尿病の病態をコンピューターによってシミュレーションし、個々の患者さんそれぞれにあった治療の支援を行う技術



*OSNA法:当社が開発した生体組織から遺伝子を精製することなく迅速に遺伝子増幅する技術です。

*グルコース(ブドウ糖):体や脳を動かすエネルギー源。

*組織液:皮膚表面より深いところにある血管からしみでて細胞同士の間を満たしている液。

業績の推移／トピックス

業績の推移 | 当第1四半期（4月～6月）の連結業績は、売上高は261億円（前年同期比10.6%増）、営業利益は20億円（前年同期比18.3%増）、経常利益は27億円（前年同期比9.8%増）、四半期純利益は14億円（前年同期比4.6%増）となりました。

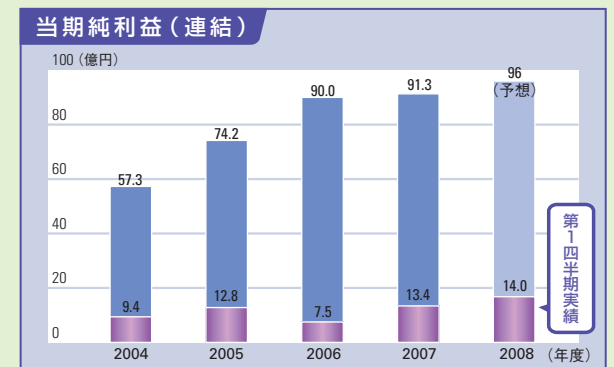
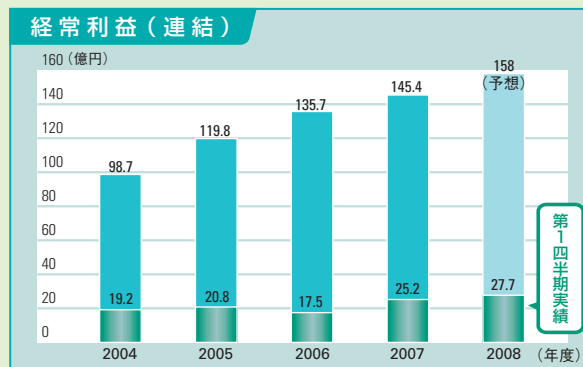
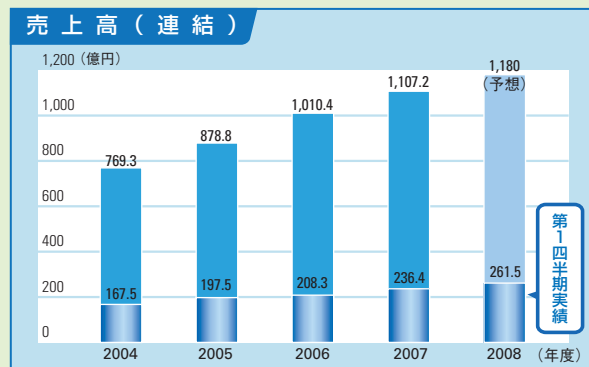
国内販売につきましては、厳しい市場環境のなか、ソリューション提案を引き続き推進した結果、国内売上高は68億円（前年同期比9.0%増）となりました。また、2008年4月より細菌検査分野最大手のバイオメュー社（本社：フランス）の日本法人に資本参加し、同社製品

の提案活動やカスタマーサービスを行うこととなりました。

海外販売につきましては、米州では直接販売・サービス体制を強化し、高い成長を持続しております。中南米市場でも入札案件の伸長とシステム販売により拡大を進めてまいりました。また、欧州ではフランスでの直接販売・サービス体制への移行や中東、アフリカなどの新興エリアへの取り組みを強化してまいりました。中国およびアジア・パシフィックでは、販売・サービス体制の整備、ソリューション提案を進めた結果、対ドルでは円高の影響による減収要因がありましたが、当社グループの海外売上高は192億円（前年

同期比11.2%増）、構成比73.7%（前年同期比0.4ポイント増）となりました。

なお、当第1四半期は、前年同期と比較して、売上高、利益ともに上回りましたが、当第2四半期以降も当初の計画どおりの推移が見込まれることから、2008年5月8日に公表しました第2四半期連結累計期間および通期の連結業績予想に変更はありません。



TOPICS トピックス・四半期の動向

乳がんリンパ節転移検査を国内で初めて自動化しました

2008年6月、当社は乳がんリンパ節転移検査に用いる試薬について、体外診断用医薬品の製造販売承認を取得しました。早期乳がんの手術では、リンパ節中のがん転移の有無の確認を顕微鏡による病理組織診断によって行っていますが、本試薬と専用分析装置を併用することにより、従来の方法と同等の精度の検査を約30分と短い時間で行うことができます。

早期乳がんの手術において、リンパ節への転移の有無を手術

中に検出することにより、転移のあるリンパ節を同時に切除しておくことが可能となるため、患者さんの再手術による負担の軽減や再発リスクの低減に貢献します。さらに、検査を自動化・簡便化したことにより、操作者の熟練度に依存せず、客観的な検査結果が得られるため、病理医の負担軽減と乳がん診療の均てん化*につながります。

今後は、この技術を胃がん・大腸がんなどの転移検査へ活用することにより、患者さんの“QOL（クオリティ・オブ・ライフ＝生活の質）”向上に貢献できる検査技術の創出に取り組んでまいります。



遺伝子増幅検出試薬「リノアンプBC」

2008/4-6

5月>>

ニワトリのインフルエンザウイルス感染を迅速に検査できるキットに関して、国内初の製造販売承認を取得

6月>>

モンゴル厚生省が当社の血液分析装置を基準器として採用

6月>>

ミャンマー・サイクロン被災地の医療機関へ血液検査装置・試薬を寄付

*均てん化:全国どこでもがんの標準的な専門医療を受けられるよう、医療技術などの格差の是正を図ること。

製品一覧

検体検査

■総合血液検査システム



HSTシリーズ



XE-Alpha N

■血球計数検査



多項目自動血球分析装置 XE-5000



多項目自動血球分析装置 XT-2000i



多項目自動血球分析装置 XS-1000i

■血液凝固検査



全自動血液凝固測定装置 CS-2000i



全自動血液凝固測定装置 CA-500

■免疫血清検査



免疫凝集測定装置 PAMIA-40i



全自動免疫測定装置 HISCL-2000i

■尿検査・便検査



全自動尿中有形成成分分析装置 UF-1000i

■POC検査



多項目自動血球計数装置 pochH-100i



自動血液凝固測定装置 CA-50



呼吸器感染症迅速診断キット
ボクテムS インフルエンザ

■検体検査試薬



IT

■検査情報システム



臨床検査情報システム SIS



血液細胞画像ファイリングシステム LAFIA

新規事業

■産業用粒子計測



フロー式粒子像分析装置 FPIA-3000



シースフロー電気抵抗式粒度分布測定装置 SD-2000

■ヘルスケア



末梢血管モニタリング装置 ASTRIM SU

ライフサイエンス

乳がんのリンパ節転移を手術中に判定



遺伝子増幅検出装置 RD-100i

シスメックスのライフサイエンス事業における初の製品として、2006年4月より欧州での市場導入を開始しました。リンパ節組織内の遺伝子を抽出・増幅し、約30分で乳がんのリンパ節転移の有無を検出します。

お買い物ついでに健康チェック!

健康管理支援サービス※「タッチで続ける健康日誌」



1~4の測定と設問への回答結果をもとに、健康情報をご提供するサービスです。現在、全国のイオングループの店頭をはじめ、39施設でご利用いただけます。(2008年7月23日現在)

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://prowell.jp>

※本サービスで提供される内容は、病気を診断するものではありません。健康状態に不安がある場合は医師の診察を受けてください。

* IR・広報室からのお知らせ *



『シスメックスあんしんレポート2008』発行のお知らせ

このたび、シスメックスのCSR（企業としての社会的責任）への取り組みについてステークホルダーの皆様へ広く情報発信するとともに、皆様とのコミュニケーションをさらに深めることを目的として、『シスメックスあんしんレポート2008』を発行しました。

レポートでは、シスメックスグループの企業理念と事業活動、CSRに対する考え方や取り組み、ステークホルダーの皆様との関わり、環境保全活動などについて詳しくご報告しています。

シスメックスあんしんレポート2008（冊子）の送付をご希望の方は、右記の方法にてご請求ください。

なお、当社ホームページ上でもご覧いただけます。

方法① インターネットからのご請求

下記のアドレスのページよりご請求ください。

www.sysmex.co.jp/sysmex/csr/index.html

報告書のご請求

報告書（冊子）の送付をご希望の方は、こちらからお申し込み下さい。

クリック!



『シスメックスあんしんレポート2008』

方法② お電話でのご請求

TEL (078) 265-0500

シスメックス株式会社
CSR推進室まで



2007年度のトピックス映像をホームページ上にて配信中!

『シスメックスがよくわかる映像シリーズ』のコンテンツのひとつとして、2007年度の業績や事業トピックスをわかりやすくご紹介する“Sysmex Now(シスメックス ナウ)”を当社ホームページ上にて配信しています。また、『シスメックスがよくわかる映像シリーズ』では、他に下記のコンテンツを配信しております。

- シスメックスがよくわかるカルテ（会社紹介）
- 5分でわかるシスメックスの技術
- 実際の検査の様子（シスメックスの製品紹介）

など

なお、「IR資料室」では、最新の各種決算資料を掲載しておりますので、ぜひ一度ご覧ください。

www.sysmex.co.jp/ir/index.html

(IR・広報室 H・Y)

●株主メモ

(2008年6月30日現在)

■事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
■定時株主総会	6月
■基準日	定時株主総会 3月31日/期末配当金 3月31日/ 中間配当金 9月30日 その他必要がある場合は、 あらかじめ公告して設定します。
■公告掲載新聞	日本経済新聞
■上場証券取引所	東京証券取引所市場第1部 大阪証券取引所市場第1部
■証券コード	6869
■単元株式数	100株

■株式事務

株主名簿管理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料)
(郵便物送付先・ 電話照会先)	
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店

●会社概要

(2008年6月30日現在)

■商号	シスメックス株式会社 SYSMEX CORPORATION (1998年10月1日東亜医用電子株式会社から商号変更)
■設立年月日	1968年2月20日
■資本金	86億6,448万円
■格付け	A (R&I:格付投資情報センター)
■従業員数	1,448名 ※左記の従業員数には関係会社への出向者204名 および嘱託、パートタイマー208名は含んでおりません。
■主な事業の内容	臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器ならびに 関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入
■本社	〒651-0073 神戸市中央区臨浜海岸通1丁目5番1号 TEL (078) 265-0500 FAX (078) 265-0524